



代表質問で掲示した提案のパネル

- 近隣12市と政令市の物価高騰対策を踏まえた
日本共産党さいたま市議団 **さいたま市への提案**
- ①水道料金の無償化、減免措置**
⇒近隣7市、政令市5市で無償化、減免措置が実施
 - ②市民への現金等の給付**
⇒札幌（子どもに給付金）など、近隣7市、政令市11市で実施
 - ③市内業者への支援**
⇒川口（独自給付金）など近隣4市、政令市11市で実施
 - ④給食費の無償化**
⇒富士見（2か月無償）、蓮田（減免）、政令市でも複数無償化

消費者物価指数が31年ぶりに3%以上の上昇を記録するなど、暮らしを直撃している物価高騰から市民を支える支援策を提案しました。

① 市民への現金給付と市内業者支援を求め、子ども給付金が実現

市民生活を支える施策として効果的な現金給付。さまざまな自治体が支援に踏み出しています。私は、札幌市の行った18歳以下の子どもに1万円を給付した事業や川口市が実施した業者への支援金などを本市でも実施すべきと提案しました。

議会最終盤、市から補正予算が提出され、**市内18歳以下のすべての子どもに1万円を給付する事業(市独自)が実現**しました！

② 水道料金の減免無償化

水道はどんな市民でも必ず使う命のライフライン。あらゆる物の価格が上昇するなかで、固定費を削減するためには水道料金の減免無償化が効果的です。物価高騰対策として近隣7市（志木市：6カ月無料など）、政令市5市（札幌、福岡市：2カ月減免など）が同支援を実施しており、本市でも決断が必要と迫りましたが、市は後ろ向きな答弁でした。

③ 給食費の無償化

近隣の蓮田市や富士見市では物価高騰に伴う学校給食費の無償化や減免措置を決めました。本市でも子どもがいればかかる給食費（1人あたり月約5000円）の無償化を行うことで子育て世帯へ支援すべきと求めました。しかし市は、コロナ禍や物価高騰であろうと保護者に負担を求める姿勢を変えませんでした。

子どもひとり一万円の給付金を実現！ 物価高騰対策を代表質問で求める

加齢性難聴に伴う補聴器購入を助成して

「加齢に伴う難聴は認知症の危険因子である」（厚労省：新オレンジプラン）と発表されてから、議会できりかえし補聴器購入に伴う助成制度の創設を求めてきました。

同制度は全国でも広がりを見せており、2022年には相模原市が政令市として、全国で初めて助成制度を創設しました。これらの事例を示しながら本市でも実施を求めましたが、残念ながら市の答弁は後ろ向きでした。しかし、補聴器を保険適用することを国に求めるよう提案した際には、初めて「検討する」と回答しました。継続的に求めるなかで市の受け止めや問題意識が変化していると感じます。ここを起点に、実現するまでがんばります。



統一協会とさいたま市の関係を追及

9月議会の代表質問で、統一協会とさいたま市の関わりについて質問しました。この質問は読売、朝日、東京、埼玉新聞でも報道され、大きな話題となりました。

▶ 清水市長が統一協会系イベントから表敬訪問を受ける

清水市長は会見で統一協会関連団体のイベント「ピースロード埼玉」から4年にわたって表敬訪問を受けていたことを報告しました。

私はこの会見を受けて市に対して表敬訪問時の資料の提出を求めると、提出資料は**実行委員会に県議3名、市議6名の計9名の議員の肩書きがありました**。しかし、氏名は全て「黒塗り」。この資料について質疑しました。

▶ 矛盾だらけの黒塗り理由

たけこし：資料に記載されている議員の名前は？

市長：記憶が定かではないので(回答を)控えたい。

たけこし：それはおかしい、元の資料がある。これを開示するべきだ。

市長公室長：名前は情報公開条例の個人情報保護の観点で黒塗りにした。

市は黒塗りにした理由を、情報公開条例からと説明していますが、**同条例では「公務員の名前は非開示情報に当たらない」として**おり、議員は特別職の公務員です。氏名を非開示にする対象になっていません。（議会質疑で確認済）

その証拠に、本市と全く同様の資料が見つかった岡山市では、**情報公開条例に従い、役員をしていた議員の氏名**

を明らかにしました。まさにさいたま市と真逆の対応です。本市の対応は統一協会と議員の関わりを深さを示しています。

▶ 「政治の力」で氏名を黒塗りに

たけこし：（当該の）議員に連絡をしたか。また、黒塗りは誰の判断で行ったのか？

市長公室長：名前が入っているという確認はした。黒塗りは私の判断で行ったと認識している。

通常であれば公開されるはずの情報を一公務員の市長公室長が独断で黒塗りにするとは考えにくい話です。おそらく当該議員が市長から、黒塗りにする要請があったと思います。まさに「政治の力」です。市としての情報隠蔽は許されることではありません。

これだけ、メディアで統一協会と政治家の関わりが報道されるなかで、自分達の足元で活動している市議がどう関わっていたかを市が非公開にすることは、有権者に対しての冒涇です。**氏名が記載されている議員に対しては潔く、自らその事実を公表し、そして関係を断ち切るということを宣言すべきと迫りました。**

引き続き、この問題について全力で取り組んでいきます。

この他に、「統一協会の問題点」「信者2世への行政支援」についても質疑しました。詳しくは、右記の動画からご覧ください。



日本共産党 さいたま市議会議員

たけこし 連

生活相談 毎週水曜日 13:30～16:30
法律相談 第4水曜日 13:30～16:00
いずれも無料です。ご連絡ください。

議会報告配信/
さいたま市議団
YouTube



たけこし連 事務所
中央区下落合5-10-3（法務局向かい）

物価高・コロナ禍から命と暮らしを守るさいたま市へ

9月議会に報告された2021年度決算は、コロナ禍のもとでも過去最高水準の大幅黒字になり、市民のために十分使われていないことが明らかになりました。さらに多額の基金残高も明らかに。私たちは、これらを物価高対策の財源に使い、市民生活と地域経済の支援をするよう提案しました。

2021年度決算は大幅黒字

一般会計 73億円黒字

財政調整基金
残高 225億円

水道会計 52億円黒字

国民健康保険基金 9.5億円

介護保険基金 44.5億円

以下の緊急対策を提案しました

給食費値下げなど暮らし支援

中小業者支援給付金など
経済支援

水道料金値下げ

国民健康保険税値下げ

介護保険料値下げ



2023年度予算要望を提出

760項目

来年の予算がこれから本格的につくられます。日本共産党市議団は今後も続く物価高対策として公共料金や保険料を引き下げること、地域経済支援の実現などを求めました。あわせて市全体としてジェンダー平等や地球温暖化対策の視点を入れることも強調しています。

予算の使い方を大型開発優先、福祉・教育費の削減・抑制から、暮らし最優先に変えることを求めます。

あなたの声を市政に届けて 令和3年度の実績 (2021年4月~2022年3月)

1 新型コロナ対策

- ワクチン接種予約の改善[コールセンターのフリーダイヤル化・回線増、ウェブ予約システム改修(医療機関の空き一覧掲示、1回目と同時に2回目の予約が可能に)]
- 保育士、小学校教員、幼稚園教諭、学童保育支援員などへのワクチン優先接種が実現
- 小規模企業者等給付金(10万円)の第3弾を実現
- 医療体制の拡充が実現

- 新型コロナ対策としての融資制度の継続が実現
- 子育て世帯への特別給付が受け取れなかった世帯に対し「支援給付金」の支給が実現



2 物価高騰対策

- 認可保育所への光熱費補助が実現
- 国の月次支援金を受給する人も小規模企業者等給付金を申請可能に
- 商店街街路灯全額補助の継続が実現
- 農業機械のリース制度について業者との調整が実施

3 誰もが暮らしやすい市政へ

- 学校トイレへの生理用品の配置、拡充を実現
- 「校則見直しプロジェクト」の実施継続
- オンライン学習通信費補助額が増額(年額12,000円→14,000円)
- 児童発達支援センター・ひまわり学園の通所日数や看護師増などの改善
- 障がい者の移動支援が拡充

- 市立ひまわり特別支援学校に高等部が増設へ
- 福祉避難所への直接避難が可能に
- 避難所の備品(ファミリーパーテーションや段ボールベッド・エアマット)拡充
- 市庁舎内のプラごみのリサイクルと実証実験を実現
- 市のCO₂排出削減目標(35%→46%)の引き上げ
- 生ごみ処理容器等購入費補助(コンポスト)の予算が増額
- 犬・猫の殺処分ゼロを達成
- ドッグランの「社会実験」が実現(浦和区三崎地区公園)
- ケアラー支援条例が制定
- 公民館のWi-Fi設置が5カ所から10カ所に増設

高校生までの医療費無償化を求める請願が不採択に

保健福祉委員会に「高校生までの医療費無償化に対する請願」が提出され、私たちは「東京23区をはじめ、政令市でも18歳まで医療費無償化の実施自治体が広がっている。本市でも実現を」と、採択を求めましたが、民主改革市議団、自民党市議団が反対して可否同数、委員長(自民党)が可否を決し、否決(不採択)となりました。大変残念ですが、引き続き、実現のために全力を尽くします。



採択を求めて討論するとうみ市議

徹底説明! さいたま市と統一協会

- 8/22 党市議団として、市に対して統一協会とさいたま市の関わりを調査を依頼。
- 9/1 清水勇人市長が記者会見で、統一教会系イベント「ピースロード埼玉」から表敬訪問を受けたことを報告。その際、「調査の結果、2018~2021年まで4回表敬訪問を受けた」「地元議員から要請があった」と話す。
- 9/7 議長に対し、議員と同団体の関係を調査するよう働きかけることを要望。議長は「今後、大きな問題になれば検討する」と回答。
- 9/9 「ピースロード埼玉」の表敬訪問の詳細資料の提出を依頼。出された資料には、埼玉県議3名、さいたま市議6名の肩書が。しかし氏名は黒塗り。
- 9/13 たけこし連市議が代表質問。黒塗りで提出した理由や当該市議に資料請求時に連絡をしたかなどを追及。
- 9/14 読売、朝日、東京、埼玉の各メディアが代表質問を報道。
- 9/26 議長に対し、「議会として調査すべき」と再申し入れ。議長は「代表質問後、多くのマスコミが報道し、市民の関心も高まった。各会派に調査を要請したい」と回答。



- 9/29 議長の調査要請を受け、民主改革さいたま市議団の市議2名が、統一協会のイベントに出席していたことを公表。
- 10/3 議長が代表者会議において、各会派に統一協会との関わりについて調査を行うよう要請。しかし、さいたま市議会自民党議員団が調査を拒否。
- 10/19 中島隆一市議(中央区・自民党)が会見を行う。「イベントには行った。黒塗りの中に名前が記載されていない」と発言。
- 10/21 中島隆一市議が2度目の会見。「黒塗りの中に名前があることを議長に教えてもらった。勝手に書かれていたようで、自分は知らなかった」と発言。
- 10/28 党市議団が「議員と統一協会との癒着に関する緊急声明」を発表。
- 11/3 埼玉新聞が調査を行い「市議13名が関わりを認め、調査拒否7名、未回答3名だった」と公表。



議長へ申し入れ